授業科目　心理測定法

【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	社会
武井　恒美	開講時期	後期	必修選択	選択
	単位数	1	時間数	15

【ディプロマポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	○	○	○

【概要・一般目標：GIO】

心理学が科学として成立して、これまでに蓄積してきた心理の測定法についての知識や理解を深める。
まず、心理測定法の概念・歴史・方法などについて概観した後、心理測定法に関する重要な事項について各論ごとに学習する。
また、心理統計の理論と実際について、重点的に学習する。
この講義では、受講生一人一人が、対象者を理解するための幅広い教養を身につけ、対象者の個性や多様性などについて理解するために、
自ら主体的に学習し続ける意欲を持つことを目標とする。

【学習目標・行動目標：SBO】

1．「心理を測定するとはどういうことか」という問いに対して、自分なりの意見を述べることができる。
2．心理測定法の概念・歴史・方法について説明できる。
3．心理測定法の各論について、要点を理解し、説明できる。
4．心理統計の理論と実際について、説明できる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	心理を測定するとはどういうことか	1,2	講義
2	測定の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度）	3,4	講義
3	ノンパラメトリック検定	3,4	講義
4	パラメトリック検定	3,4	講義
5	精神物理学的測定法	3	講義
6	尺度構成法	3	講義
7	テスト理論（妥当性と信頼性など）	3	講義
8	多変量解析	3,4	講義

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）	特になし。適宜プリントを配布する。			
参考書	改訂版　心理検査の実際	澤田丞司	株式会社　新興医学出版社	2004・4,200円＋税
その他の資料	講義時に指示する。			

【評価方法】

（1）出席状況
（2）毎回の講義時の課題
（3）筆記試験
以上の３点で総合的に評価する。

【履修上の留意点】

学生の積極的な授業参加を期待する。
受講態度の悪い受講生は減点対象となる。
本講義の学習内容を、医療福祉の現場において活用しようとする姿勢が求められる。
８回の講義のうち３回程度、自分のノートPCを持参すること（何回目に持参するかは講義時に指示する）。